



フィンランド発の労働安全



フィンランド
労働衛生研究所
労働安全部門
ディレクター
トンミ・アランコ

職場の安全衛生に精通し、ビジョン・ゼロ・フォーラムの推進を通じて、安全文化の深化に取り組む。多様な関係者との連携を重視している。

■ビジョン・ゼロ・フォーラムとは
ビジョン・ゼロ・フォーラム（VZF）は、フィンランド労働衛生研究所（FIOH）が2003年に設立した、労働安全・健康・ウェルビーイング推進のための連携団体で、560以上の団体が加盟し、国内労働人口の約18%を代表するネットワークに成長している。

フィンランドが『世界幸福度報告書』で8年連続「世界で最も幸福な国」と評価される背景には、前向きな職場文化とウェルビーイングへの投資がある。VZFはその象徴であり、事故、燃え尽き、有害暴露、いじめのない職場を目指す包括的な安全文化を推進している。フォーラムは加盟団体にベストプラクティスや最新情報、改善ツールを提供する。

VZFの強みは、加盟団体の相互連携だ。全国および地域単位で開催されるセミナーやウェビナーでは、成功事例を共有し、経験から学び合う。労働安全の継続的な改善を実践する職場には、安全レベル認証が毎年授与される。「オープンさ」「学び合い」「励まし合い」などのVZFの価値観は、前向きな安全文化の

土台となり、フィンランドの幸福と生産性向上に寄与している。

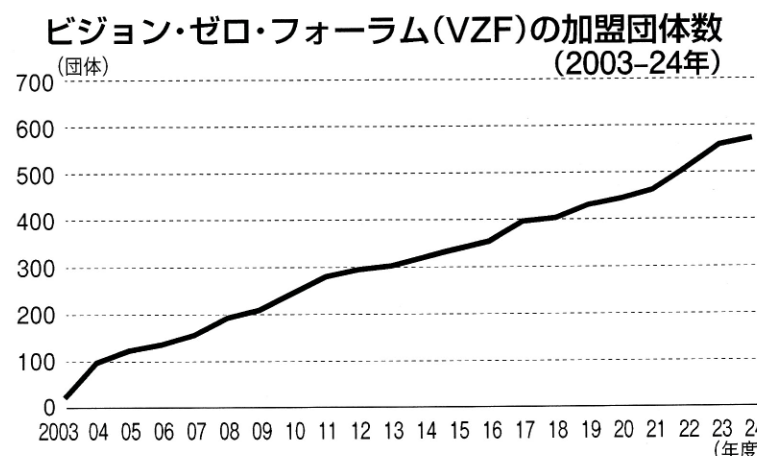
VZF加盟企業、成功事例を共有

■加盟企業のベストプラクティス
VZFはさまざまな産業で、安全とウェルビーイングの文化を根付かせてきた。加盟企業では多くの優れた取り組みが実践され、それは地域ネットワークを通じて共有する。こうしたネットワークが相互学習を促し、安全文化の波及を後押しするのである。

例えばスカンスカ社の「LIFEプロジェクト」は、「人と環境を大切にすること」という価値観のもと、思いやりの文化を育み、すべての人が無事に帰宅できる職場を重視すること、勤務時間中はもちろん、それ以外の時間においても一人ひとりがかけがえのない存在であることを従業員に示している。

LIFEセッションでは、個人の経験を共有したり、安全に関する悩みを話しやすい雰囲気づくりを行ったりしている。さらに、ツールボックス・ミーティングの実施や、作業着に「母」「祖父」「友人」などと記す取り組みを通じて、誰もが唯一無二の存在であることを強く意識させ、協力会社も含め、互いに支え合える安全な職場の実現を目指している。

また、重電メーカーのバルチラ社は、20年春のコロナ禍に「パトロール安全巡回」を実施。在宅勤務者に安全意識を保ってもらうため、ウェルビーイングや火災対策、作業姿勢、休憩、運動など幅広いテーマで対話を行った。これはコミュニケーションの大切さと新たな取り組みを根付かせる必要性を示す機会となり、同社は今後も安全を最優先に取り組んでいくとしている。



幸福と生産性向上に寄与

人と環境を大切に、安全な職場実現へ

■フィンランドにおける企業経営とウェルビーイング
ウェルビーイング重視の革新的な経営で知られ、それが「世界一幸福な国」とされる要因の一つとなっている。企業は信頼と対話を重んじる文化のもと、満足度だけでなく生産性やイノベーションの向上にもつながっている。

社会保健省は30年を見据えた政策を策定。安全で健康的な労働条件の確保、能力や就業力の向上を柱に、雇用者・労働者・産業保健の連携を重視している。

企業もまた、フレキシブルな勤務体制やメンタルヘルス支援などを導入し、ウェルビーイングへの投資がエンゲージメント（愛着）、定着率、業績の向上につながっている。

職場のウェルビーイングは、企業の競争力や業績、評価に大きく影響する重要な要素である。フィンランド企業はその価値を早くから認識し、投資を続けてきた。調査でも、職場のウェルビーイングと企業の成果指標には良好な関係があることが示されている。

■フィンランドにおける労働安全衛生の未来
フィンランドの労働安全衛生（OSH）の未来は、変化を続ける働く環境と、それに伴う新たな課題や潮流にいかに対応していくかにかかっている。VZFをはじめとする関係機関や企業は、従業員のウェルビーイングを守るために、先進

AI・デジタルで意思決定の質上げる



2024年VZF年次セミナーの安全レベル認証授与式

的かつ柔軟なアプローチを模索し、実践している。今後、特に重要となる課題の一つが、気候変動による影響だ。気候変動によって熱ストレスが増加し、極端な気象現象が頻発。さらには職業病の発症傾向にも変化が見られるようになる。と予想されている。フィンランド企業は、従業員の安全と健康を確保するための戦略づくりを積極的に進めている。

デジタル化とAI（人工知能）の進展は職場を変革し、労働安全衛生に新たな可能性と課題をもたらす。生産性や安全性の向上が期待される一方、企業はデータプライバシーやアルゴリズム管理、メンタルヘルスに関するリスクに対応しながら、安全で互いに支え合う職場づくりを進めている。

AIやデジタルツールの活用は業務の効率化や安全管理の精度向上、意思決定の質の向上につながり、従業員のウェルビーイングを高める。仕事が高度化・複雑化する中、フィンランド企業はメンタルヘルスや認知機能、ウェルビーイングを支える取り組みを進めている。また、サプライチェーン（供給網）の重要性も高まる。物資やサービスの流れを絶やさないためには、原材料の調達から流通・小売に至るまで、各段階でのリスクを的確に把握し、管理する仕組みが不可欠だ。企業は、パートナーとの協力と相互学習を通じて、全体としての安定性とレジリエンス（復元力）の強化を図っている。

VZFは、継続的改善と協調の文化醸成で、未来の課題対応に向けて重要な役割を今後も果たしていく。加盟団体は成功事例の共有や相互学習を通じて、新たな潮流に柔軟に対応し、安全で健康的な職場環境の確保を実現できるのである。



「同僚」「祖母」「父」「兄弟」と書かれた作業着

働く人の安全・健康・ウェルビーイング